

スポーツと文化		講義	教授 平沢 信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

### 1. 授業のねらい・概要

今日、世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ、また地球上の数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では、スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで、人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から、ときには文化人類学的観点も交えながら、スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なる、世界史的教養を文明史の視点から深める講義としたい。

### 2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記したレジュメをGメールで事前配信し、その講義要旨に即して解説する。適宜PowerPointを活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ、そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって受講生諸君には、講義要旨を読みつつ、スクリーンにも注視するよう努めてほしい。

### 3. 授業計画

1. 「スポーツ」とは何か? — 語義と語法	9. 近代フットボールの成立と派生形
2. スポーツの歴史 — その概観と種類 (類別)	10. 球を棒等で打つ競技の誕生と歴史
3. オリンピックの歴史と文化	11. 体操という身体運動文化の近代史
4. 祭典・祝祭とスポーツ	12. 近代球技スポーツの文化史
5. スポーツと宗教	13. 日本における近代スポーツの紹介と導入
6. スポーツと社会階級	14. 近代日本におけるスポーツ文化の普及と発展 — 学生野球の歴史を中心に
7. 体育スポーツ施設の文化史	15. 西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化
8. 足で蹴る球技スポーツの歴史 — フットボールとバスケットボールを中心に	

### 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料をpdf版で事前送信するので、その講義要旨の当該ページを次回講義までに通読して予習(30分程度)しておくこと。興味をひかれた情報については、受講者各自が所有するスマホ等で検索し、積極的に確認してもらいたい。

また講義終了後、講義要旨(レジュメ)の内容を読み返し、気になる事項や人名あるいは地図についてインターネットで検索して、あるいは関連文献で学習を深掘りし、復習(30分程度)しておくこと。

### 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

学期末試験について特に注意を喚起すべき事項(多かつた誤答など)等の講評をGメールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

### 6. 授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史(ルーツや創始者を含む)および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め、説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず、併せて世界の地理に関する認識・理解も高める。

### 7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験の点をもって評価する。

#### **8. テキスト・参考文献**

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社，1978年  
ハイナー・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店，1993年  
寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院，1994年  
杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社，1995年  
鈴木守，山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま）』道和書院，2000年  
稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社，2002年  
井上俊，菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房，2012年

#### **9. 受講上の留意事項**

講義中は私語を慎み，居眠りをしないこと。  
可能な限り図書館に行って，上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。  
インターネットでの検索を厭わず，億劫がらずに，こまめに調べる態度と習慣を養うこと。  
当該回の講義要旨全体を熟読して，復習すること。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。